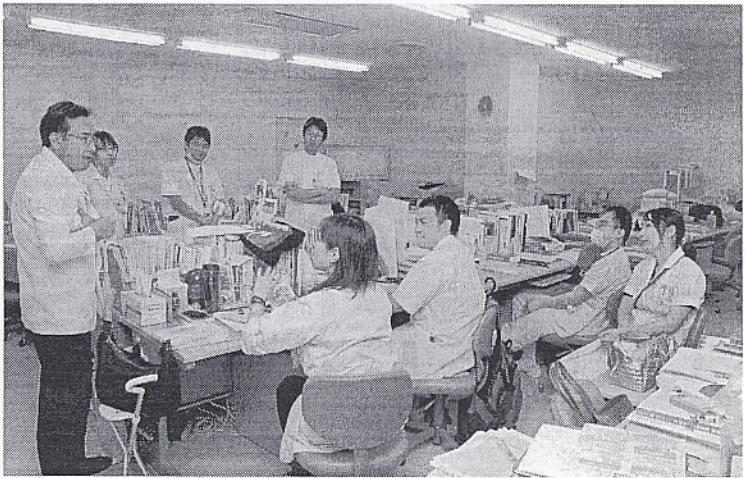


全国上位の研修医数 「自由度」の高さ好感か

県立医大付属病院

免許取得後の研修先を自由に選べる04年の新医師臨床研修制度導入によって研修医の地方離れが進む中、和歌山市の県立医大付属病院での研修医数は、全国の大学病院でも上位にある。さまざまな診療科、市民病院や僻地診療所などで実習できる自由度の高いプログラムが受け入れられていると、関係者はみている。

コンピュータで病院と医学生の希望を突き合わせ、受け入れ先を決める10年度研修医マッチングには、全国1052病院の募集定員1万5000人に対し、新人医師8406人が参加。同病院のマッチ者数は57人で、全



活発に議論する研修医ら—和歌山市紀三井寺の県立医大で

国112大学病院中17位。大学病院の平均が79・1%の定員充足率は、86・4%だった。同病院は3カ月ごとに診療科や期間を見直し、県内外の20病院の協力も得ている。新制度導入直後は研修後の入局者が30人台に減少したが、近年は50人以上で導入前を上回って

いる。「家庭医」になりたいという研修2年目の保脇雄介さん(25)は、13診療科を回った。「患者との接し方や考え方で診療科ごとの違いが分かり、視野が広がった。同期も多く、高い専門性を求める仲間もいて刺激になった」と語った。

新制度導入後、都市部の病院に研修医が集中、医師派遣機能を担う地方の大学病院で激減し、地域医療の崩壊につながっていると指摘された。厚生労働省は都道府県別の定員上限を設け必修診療科を減らすなどしたが、10年度も定員充足率が20〜30%台の地方大学病院がある。【加藤明子】

